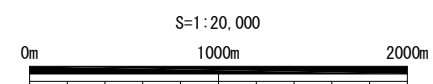
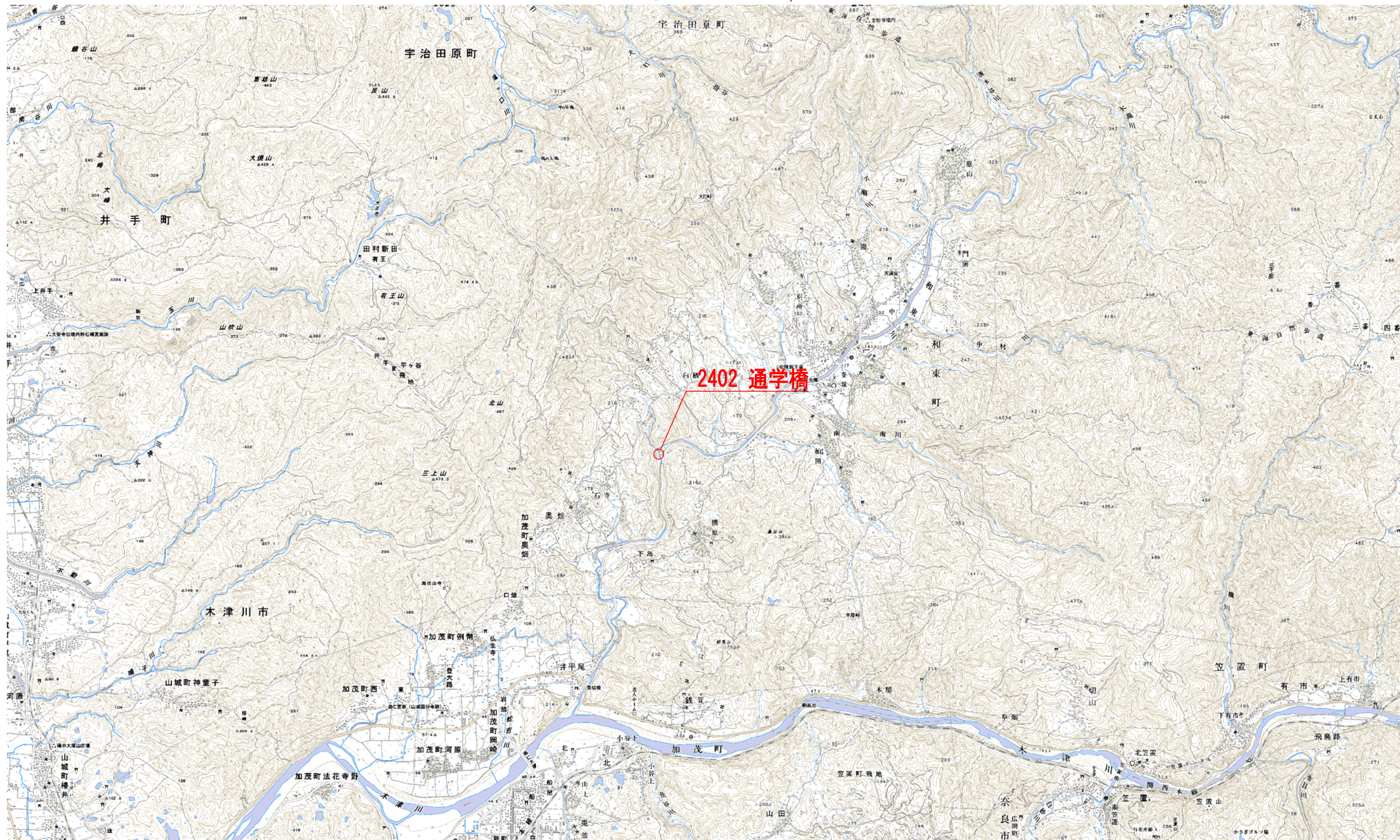
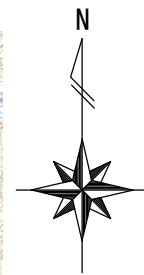


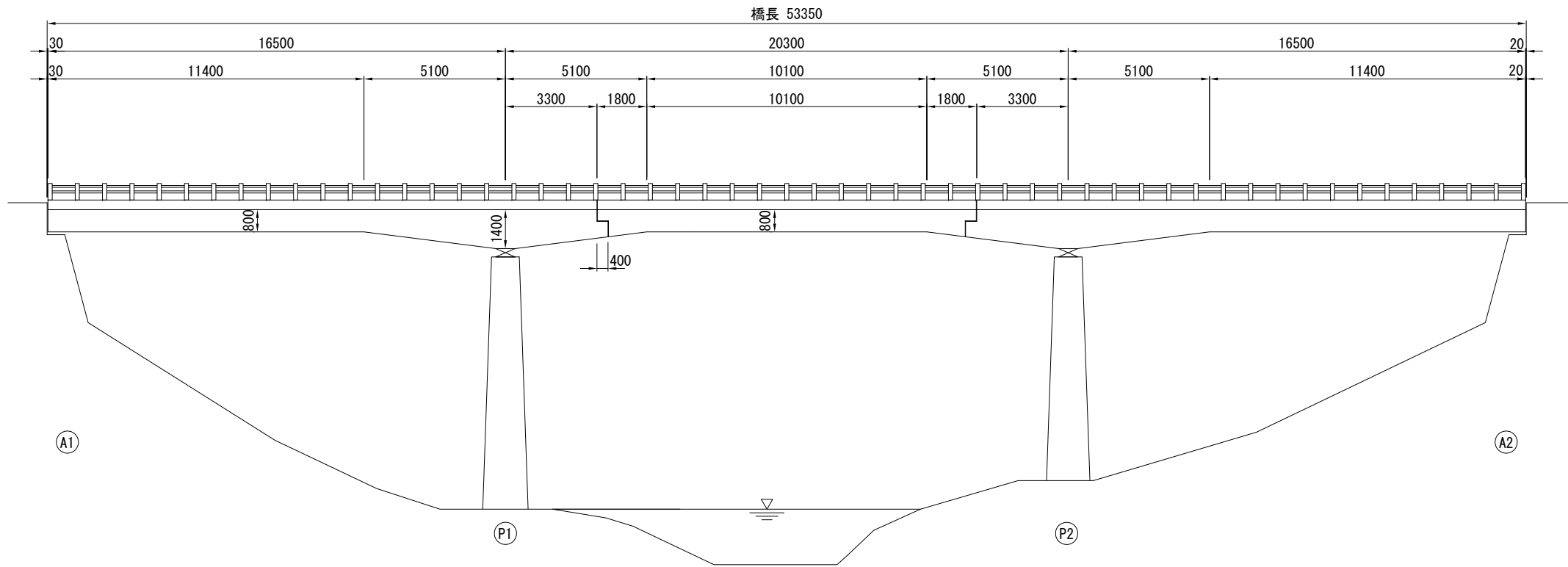
位置図 S=1:20,000



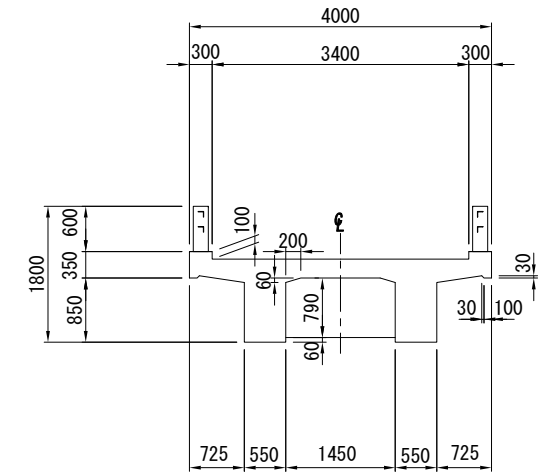
工事名	町道白栢原線通学橋補修工事
工事番号	社整交第26-4号
施工箇所	-
図面種類	位置図
縮尺	図示
図面番号	14 葉之内 1

通学橋 上部工構造一般図

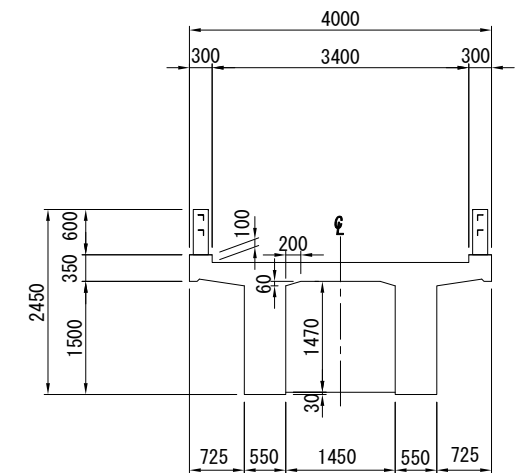
側面図 S=1:100



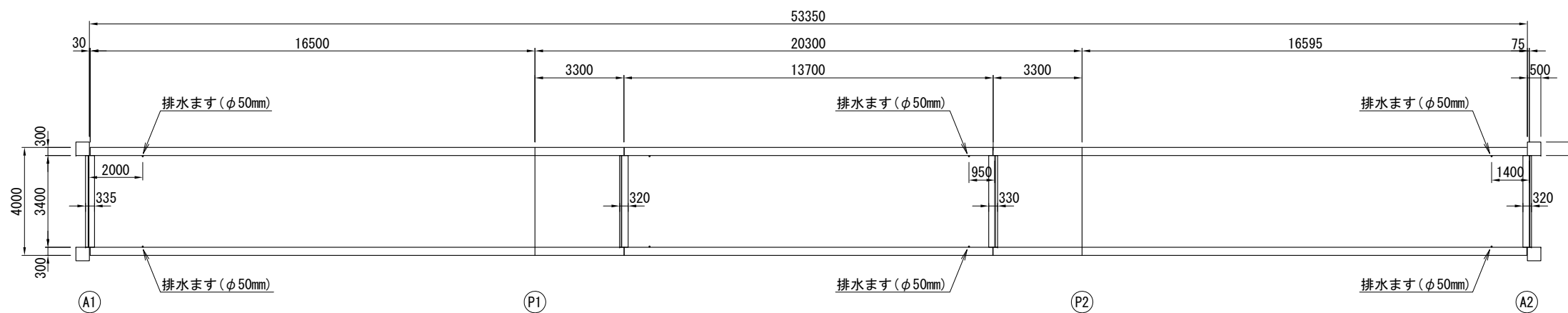
断面図 S=1:50
(中間桁)



(P1, P2端部)



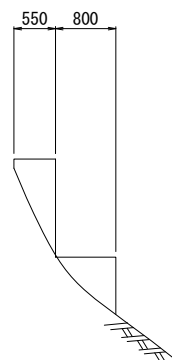
平面図 S=1:100



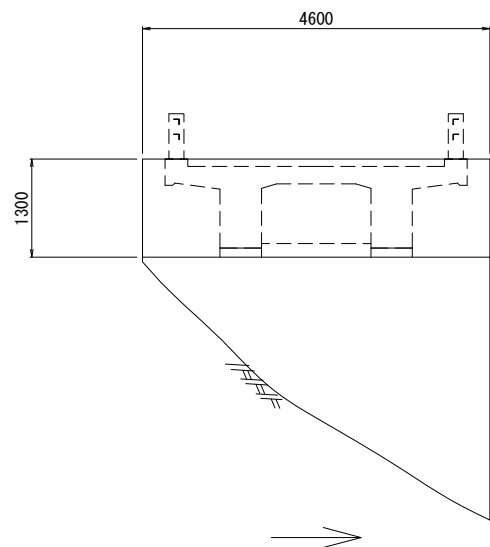
工事名	町道白栢原線通学橋補修工事
工事番号	社整交道第26-4号
施工箇所	和東町撰原地先
図面種類	通学橋 上部工構造一般図
縮尺	図示
図面番号	14 葉之内 2

通学橋 下部工構造一般図(その1)

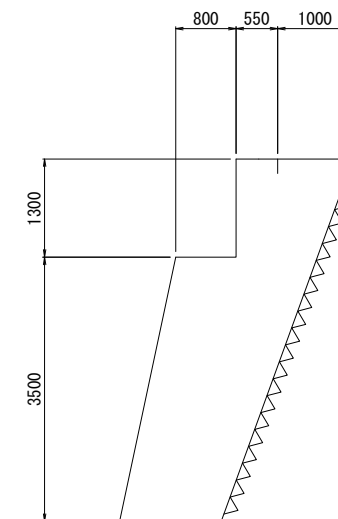
側面図(上流側)



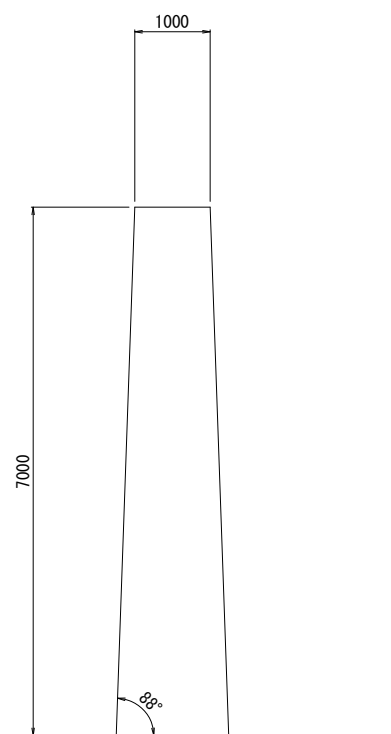
A1橋台 S=1:50
正面図



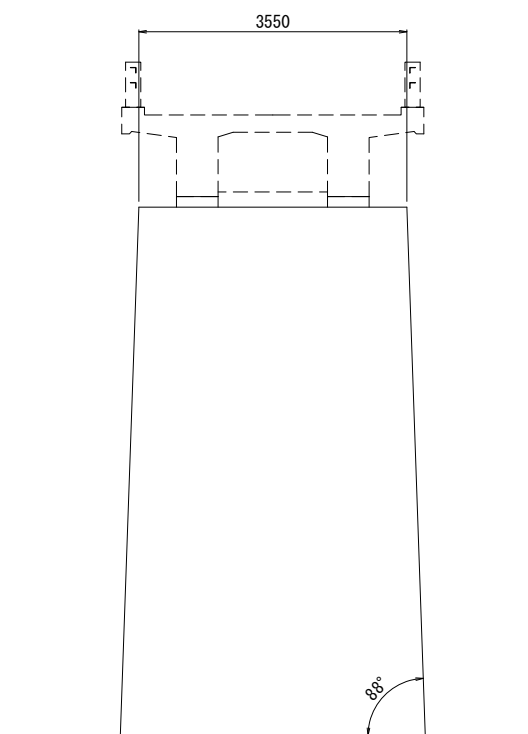
側面図(下流側)



側面(終点⇄起点)

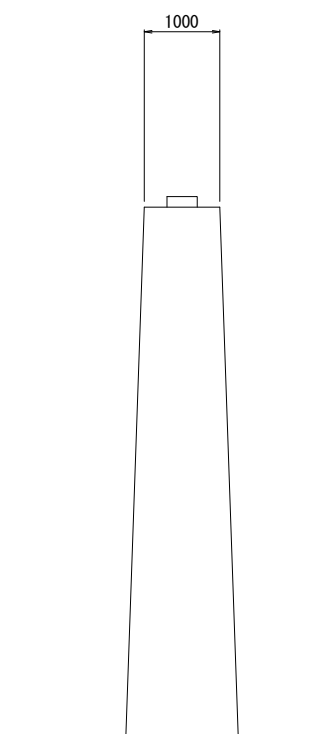


起点側

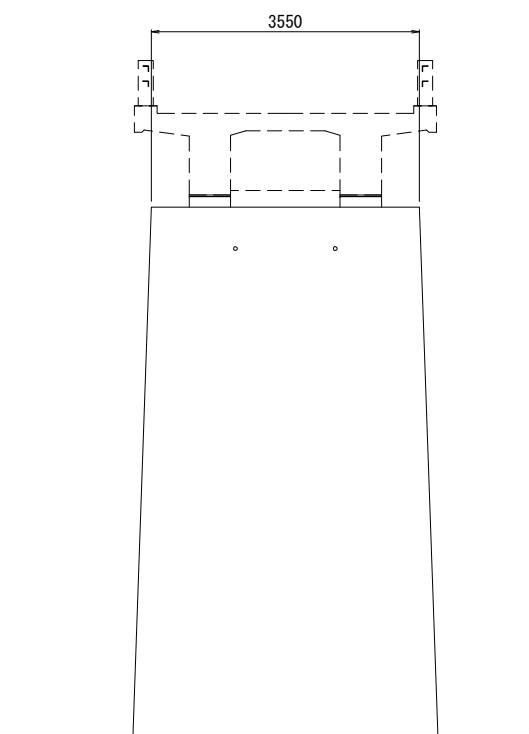


P1橋脚 S=1:50

側面(起点⇄終点)



終点側

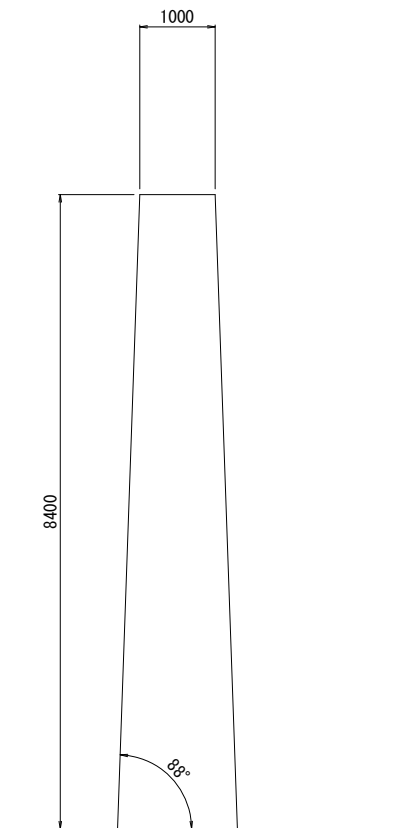


工事名	町道白栢撰原線通学橋補修工事
工事番号	社整交第26-4号
施工箇所	和束町撰原地先
図面種類	通学橋 下部工構造一般図(その1)
縮尺	図示
図面番号	14 葉之内 3

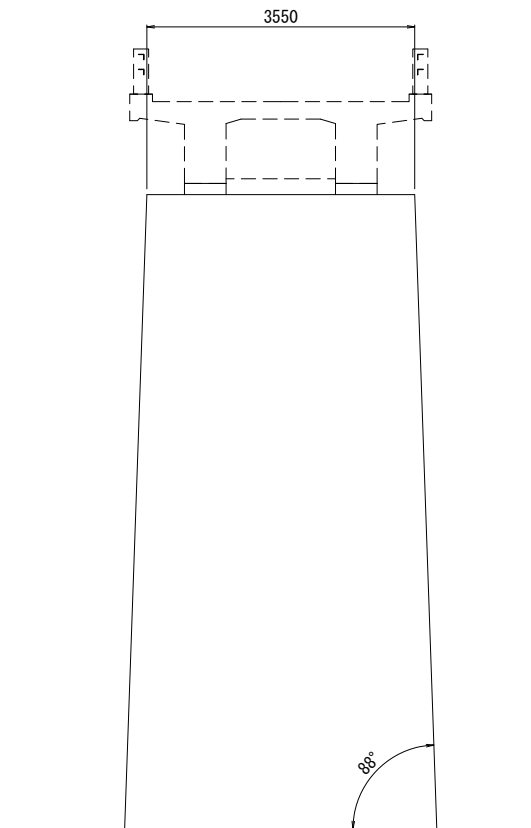
通学橋 下部工構造一般図(その2)

P2橋脚 S=1:50

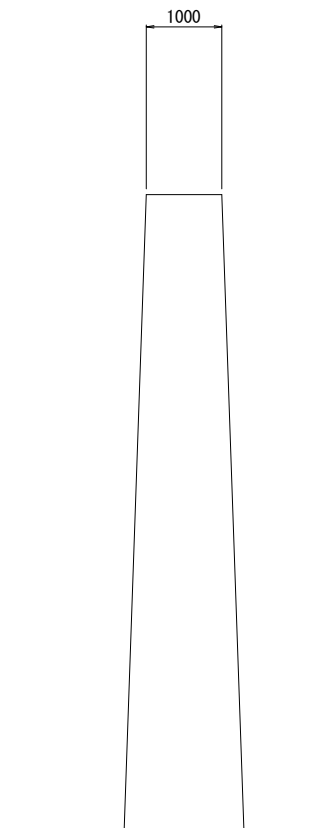
側面(終点⇄起点)



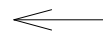
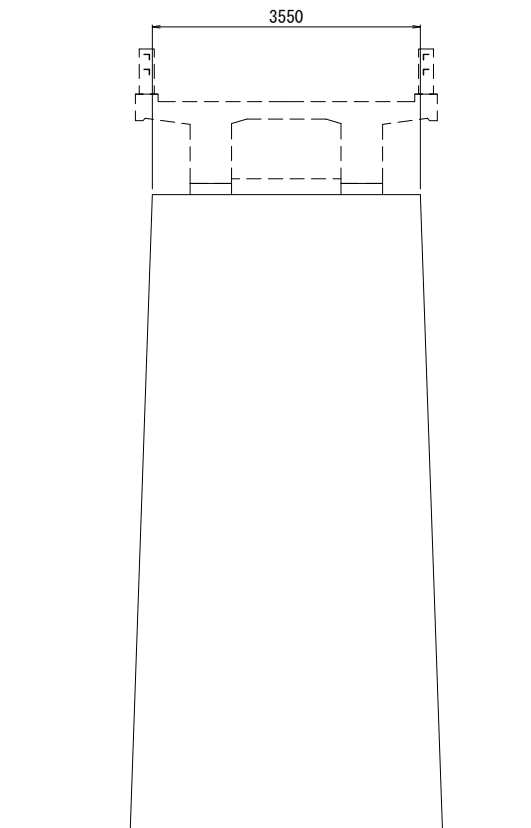
起点側



側面(起点⇄終点)

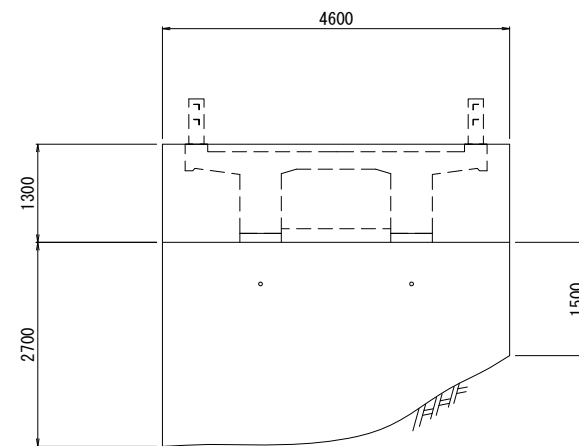


終点側

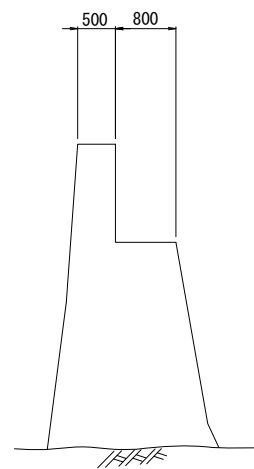


A2橋台 S=1:50

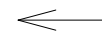
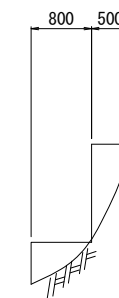
正面図



側面図(下流側)



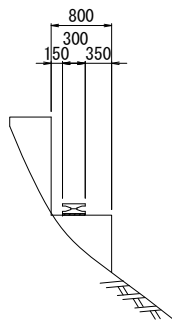
側面図(上流側)



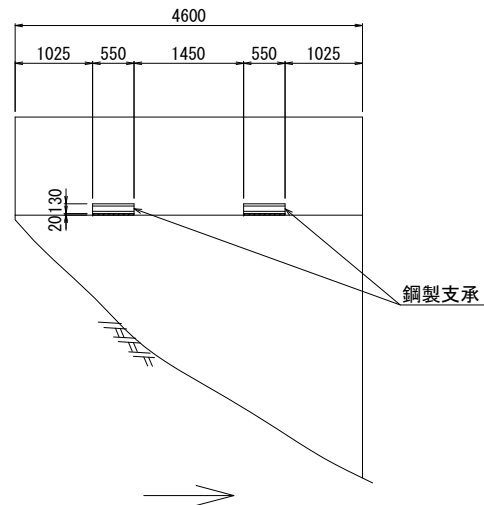
工事名	町道白栢撰原線通学橋補修工事
工事番号	社整交道第26-4号
施工箇所	和束町撰原地先
図面種類	通学橋 下部工構造一般図(その2)
縮尺	図示
図面番号	14 葉之内 4

通学橋 支承詳細図(その1)

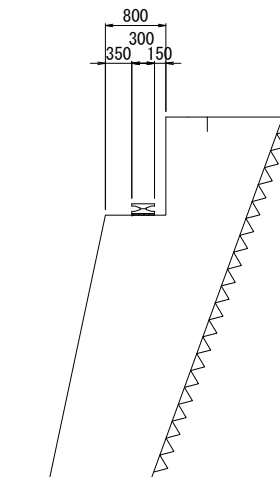
側面図(上流側)



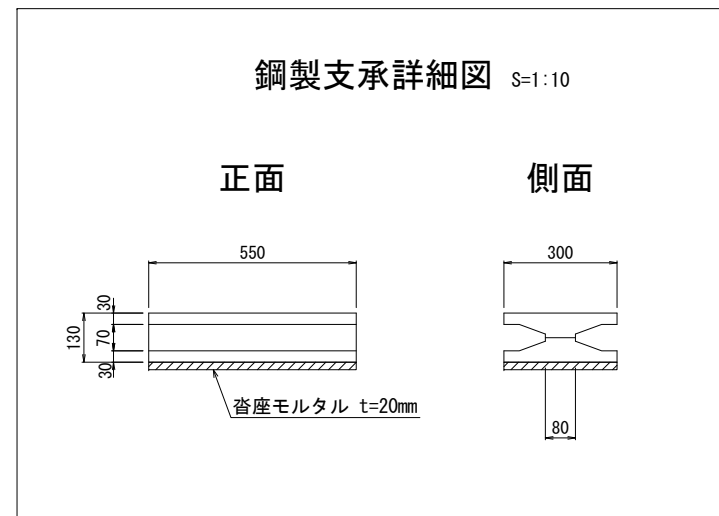
A1橋台 S=1:50
正面図



側面図(下流側)

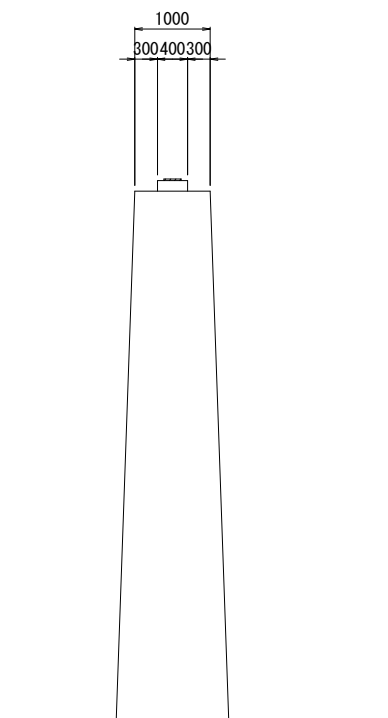


鋼製支承詳細図 S=1:10

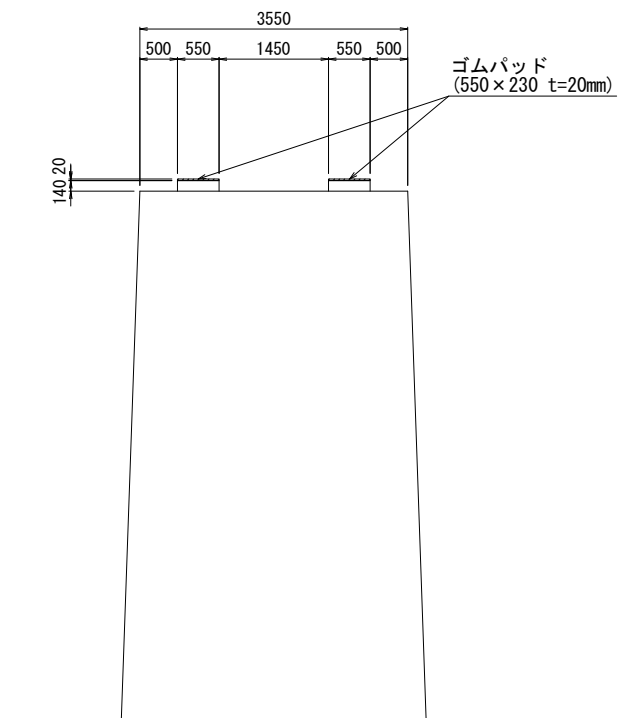


P1橋脚 S=1:50

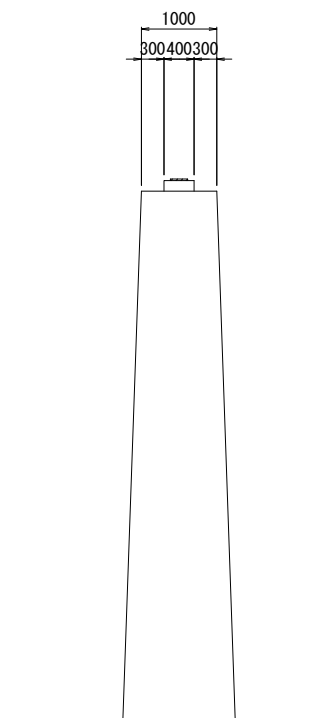
側面(終点⇔起点)



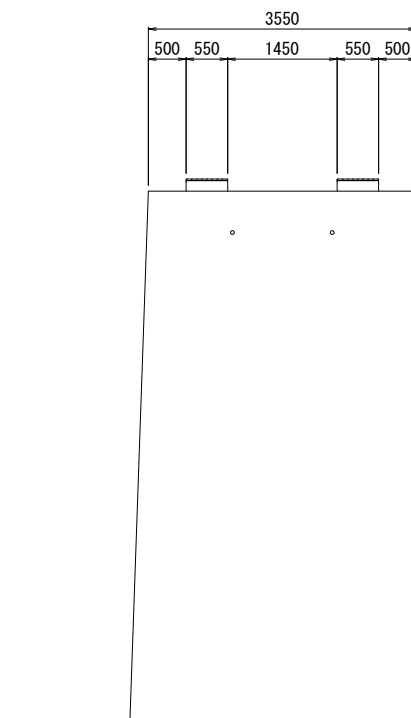
起点側



側面(起点⇔終点)



終点側

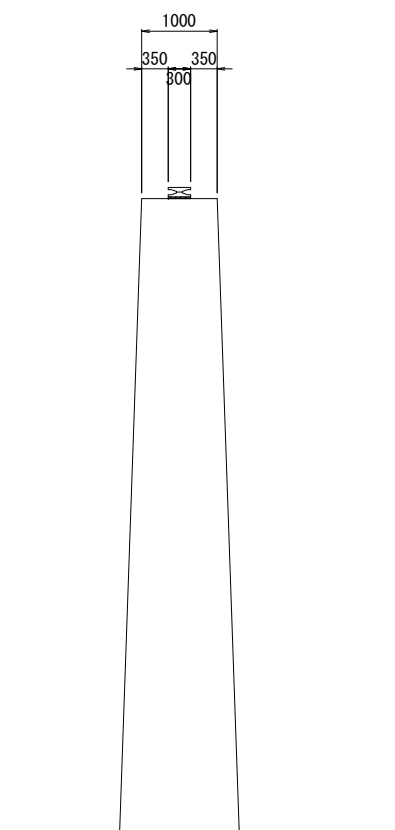


工事名	町道白栢原線通学橋補修工事
工事番号	社整交道第26-4号
施工箇所	和東町撰原地先
図面種類	通学橋 支承詳細図(その1)
縮尺	図示
図面番号	14 葉之内 5

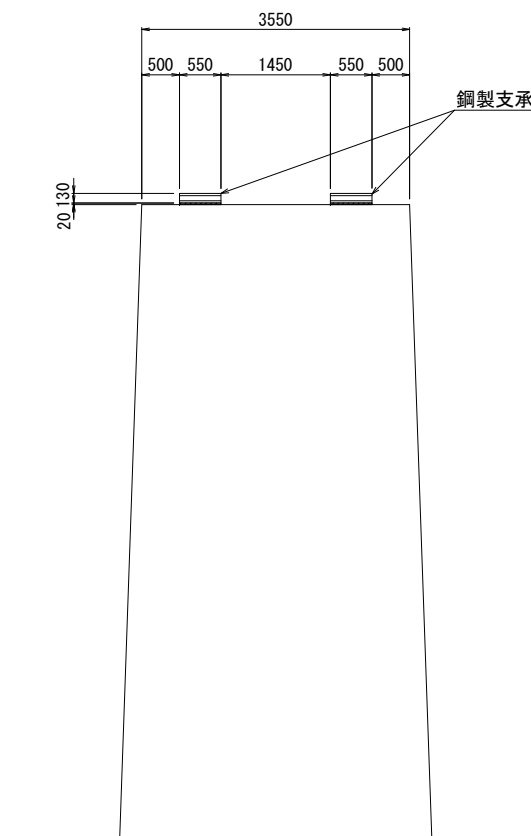
通学橋 支承詳細図(その2)

P2橋脚 S=1:50

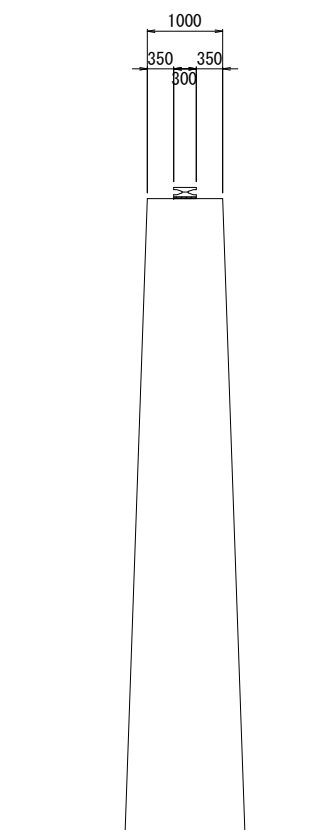
側面(終点⇄起点)



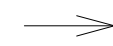
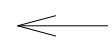
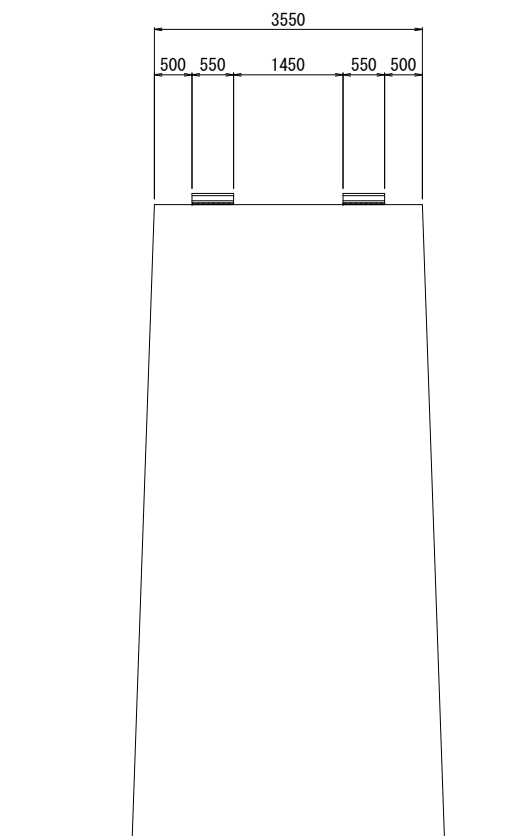
起点側



側面(起点⇄終点)

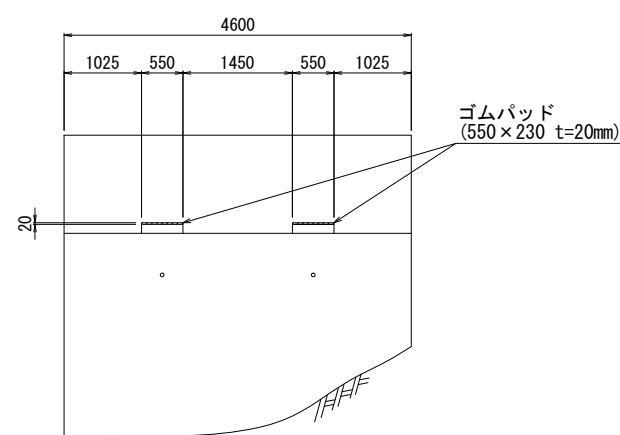


終点側

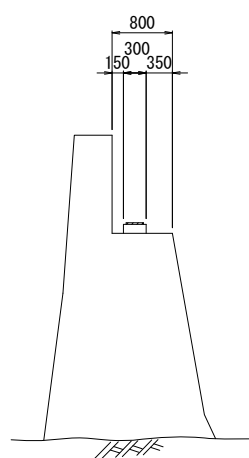


A2橋台 S=1:50

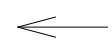
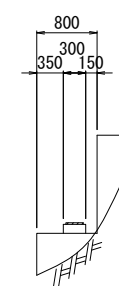
正面図



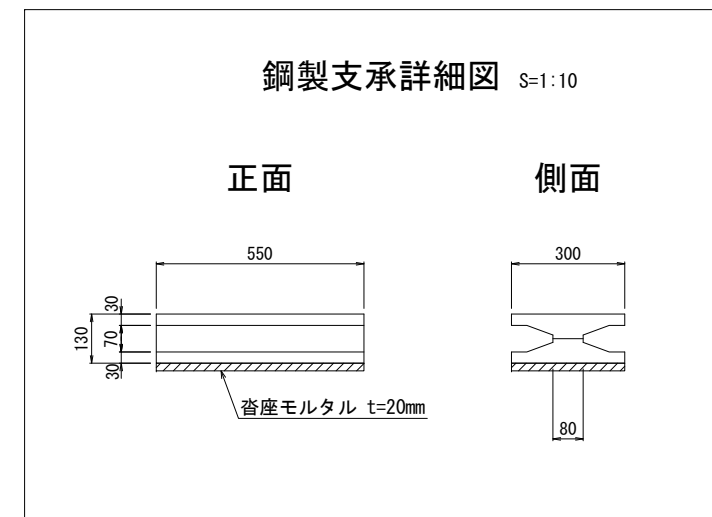
側面図(下流側)



側面図(上流側)



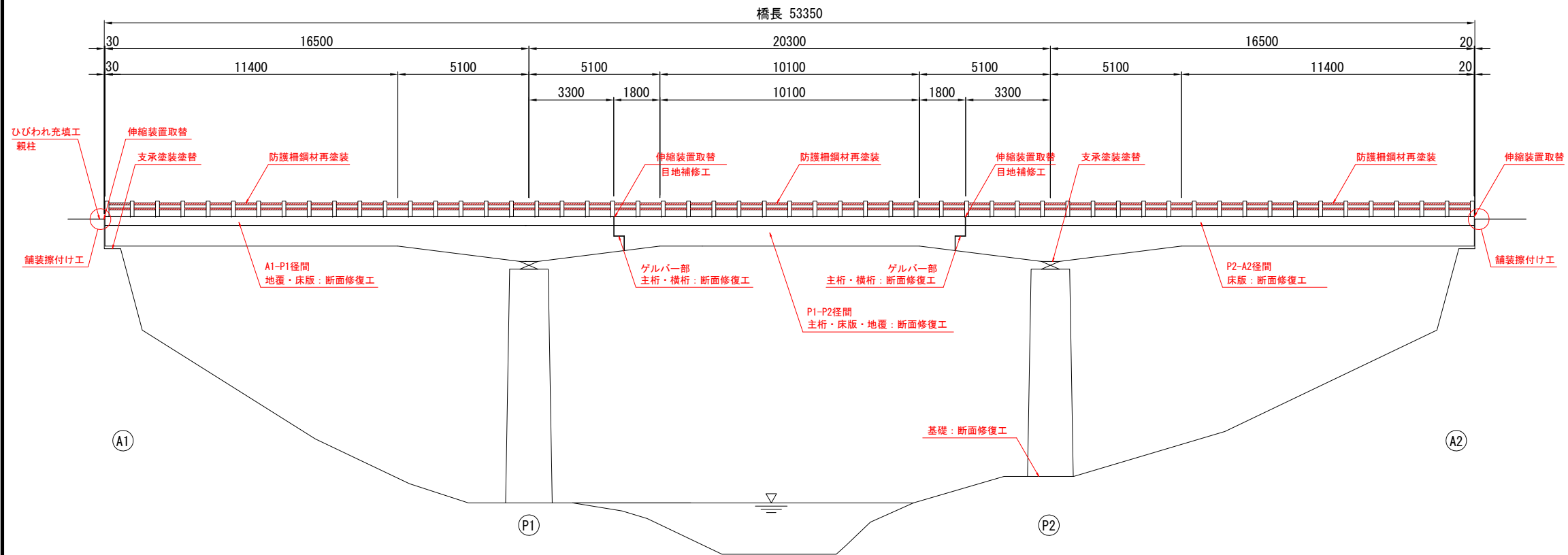
鋼製支承詳細図 S=1:10



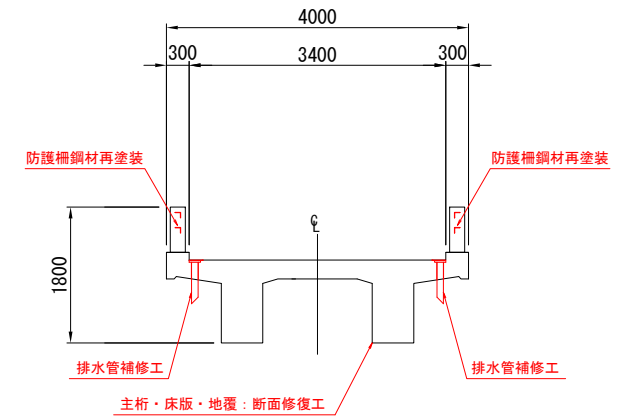
工事名	町道白栢撰原線通学橋補修工事
工事番号	社整交第26-4号
施工箇所	和東町撰原地先
図面種類	通学橋 支承詳細図(その2)
縮尺	図示
図面番号	14 葉之内 6

通学橋 補修一般図

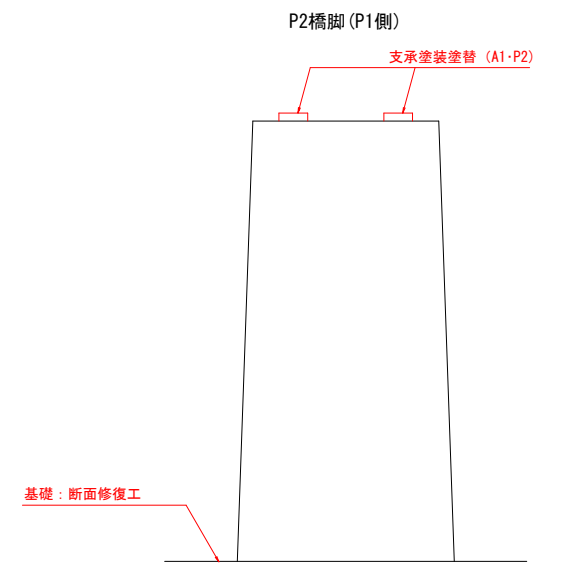
側面図 S=1:100



上部工断面図 S=1:50

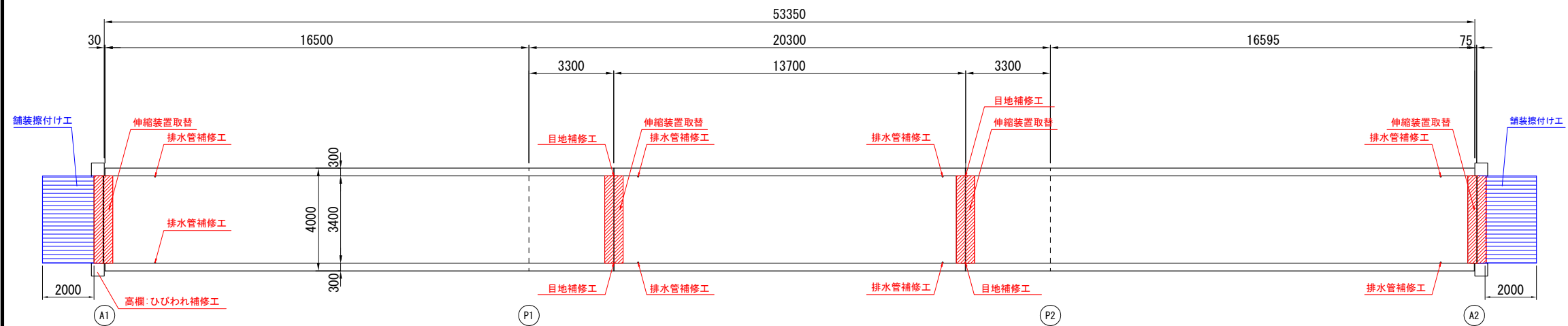


下部工正面図 S=1:50



注記) ・A1橋台、P1橋脚、A2橋台においては損傷箇所無し。

平面図 S=1:100

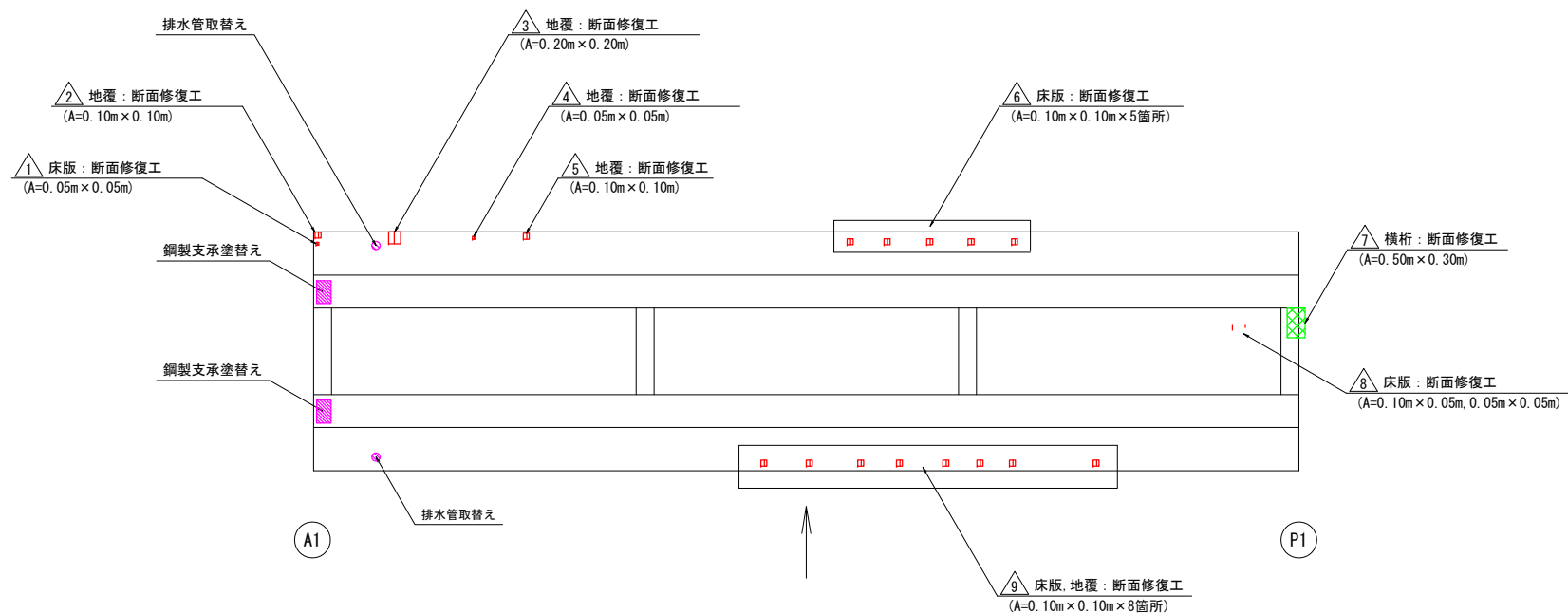


工事名	町道白栢原線通学橋補修工事
工事番号	社整交第26-4号
施工箇所	和東町栢原地内
図面種類	通学橋 補修一般図
縮尺	図示
図面番号	14 葉之内 7

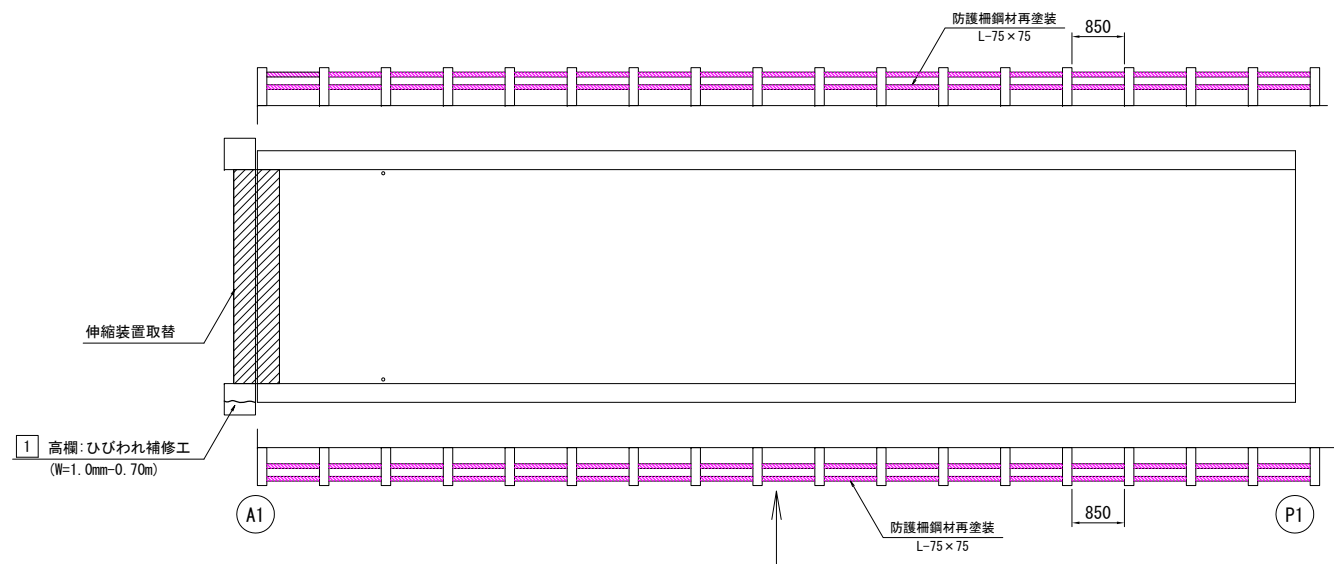
通学橋 上部工補修図 (その1)

A1-P1径間

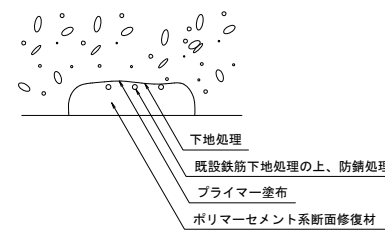
桁下 S=1:60



橋面 S=1:60

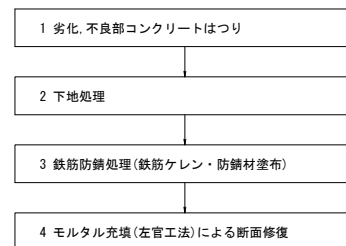


断面修復工法



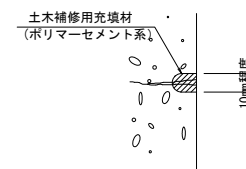
1. 断面修復は施工時に鉄筋腐食状況を確認し行うこと。
2. 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷をあたえないよう周囲に深さ1~2cm程度コンクリートカッターにより断面目地を入れ、入念に施工する。
3. 使用材料はポリマーセメントモルタルとする。

※ 施工手順 (断面修復工法)



充填工法

(0.5mm ≤ t 及び遊離石灰を伴う場合は充填工法とする)



1. 使用材料は土木補修用充填材(ポリマーセメント系)とする。
2. Uカットの幅は10mm程度を標準とする。

※ 施工手順 (充填工法)



断面修復工数量 (第1径間桁下)

部材名	No.	損傷寸法	面積 (m ²)
床版	1	0.05 × 0.05	0.003
地覆	2	0.10 × 0.10	0.010
地覆	3	0.20 × 0.20	0.040
地覆	4	0.05 × 0.05	0.003
地覆	5	0.10 × 0.10	0.010
床版	6	0.10 × 0.10 × 5	0.050
横桁	7	0.50 × 0.30	0.150
床版	8	0.10 × 0.05	0.005
		0.05 × 0.05	0.003
床版・地覆	9	0.10 × 0.10 × 8	0.080
合計			0.354

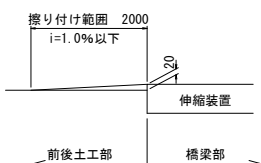
ひびわれ補修工数量 (第1径間橋面)

部材名	No.	0.2mm ≤ t < 0.5mm		0.5mm ≤ t 及び遊離石灰を伴う場合	
		寸法 (m)	幅 (mm)	寸法 (m)	幅 (mm)
高欄	1			0.70	1.0
合計				0.70	

防護欄鋼材再塗装工 (第1径間: Rc-III 塗装系)

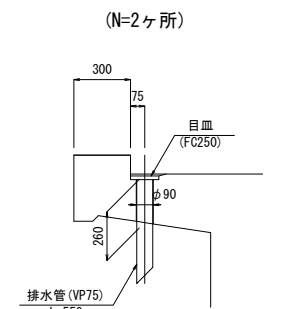
	防護欄鋼管再塗装工面積寸法	面積 (m ²)
上流側	0.075 × 0.850 × 4 × 2 × 17	8.670
下流側	0.075 × 0.850 × 4 × 2 × 17	8.670
合計		17.340

舗装擦付詳細図



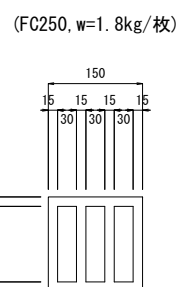
※ 路面の凹凸 (h=20mm) に対し舗装擦付を実施する。舗装の擦付勾配は、縦断1.0%以下とする。

排水管取替え部断面図 S=1:20



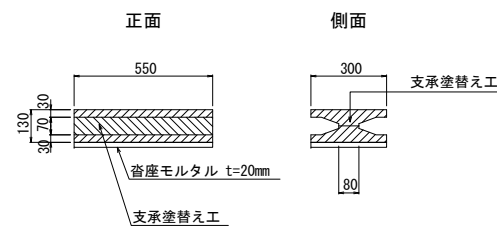
※ 既設排水管部をφ90で削孔し、新設排水管 (VP75) を差し込み、目皿を取り付ける。

目皿 S=1:6



※ 目皿周りはセメントモルタルにて固定すること。

鋼製支承詳細図 S=1:15



鋼製支承塗替え工 (第1径間) 金属溶射 + エポキシ樹脂塗装

	塗替え箇所数 (基)
A1橋台	2
合計	2

注記) 施工前に再度形状を確認すること。

補修工法凡例

損傷の種類	表示	補修工法
ひびわれ		ひびわれ補修工
剥離		断面修復工
鉄筋露出		-
遊離石灰		-
漏水・滞水		-
欠損		断面修復工
腐食		塗装塗替え工
うき		断面修復工
その他		-

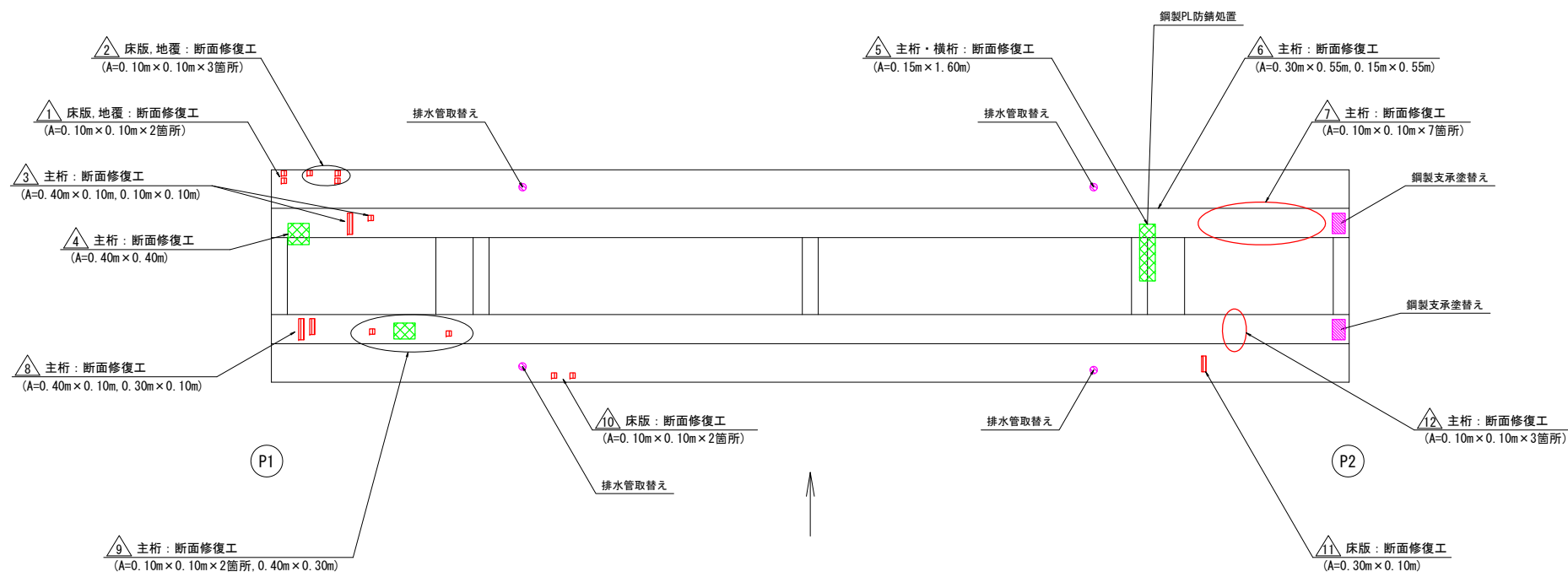
工事名	町道白栢原線通学橋補修工事		
工事番号	社登交第26-4号		
施工箇所	和東町栢原地内		
図面種類	通学橋 上部工補修図 (その1)		
縮尺	図示		
図面番号	14	葉之内	8

注記) 施工前には必ず現地確認を行い、設計図書と確認の後補修数量を確定させること。

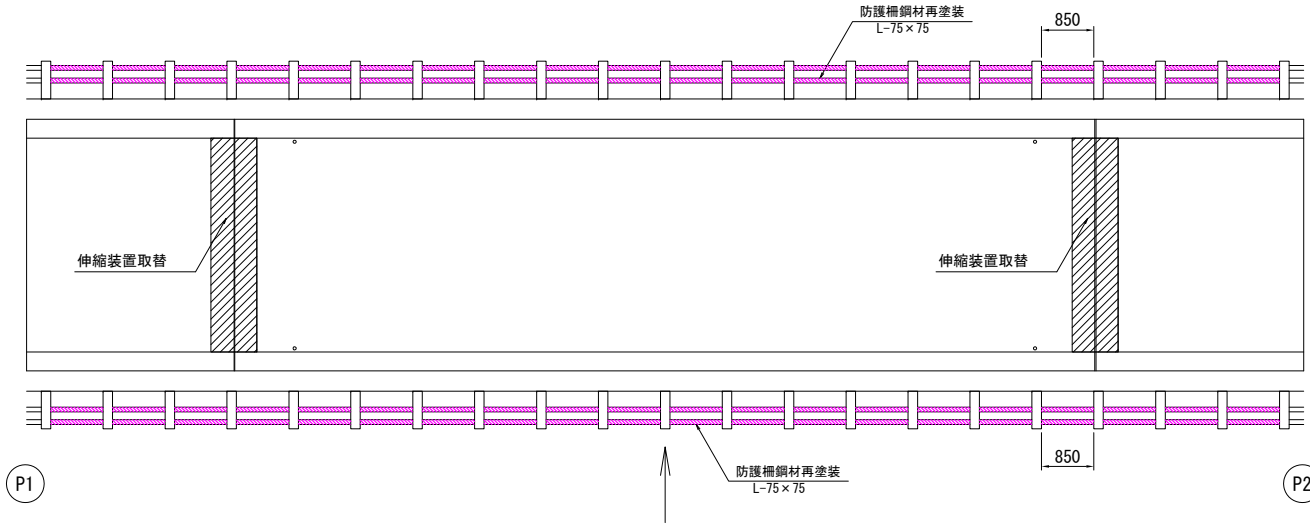
通学橋 上部工補修図 (その2)

P1-P2径間

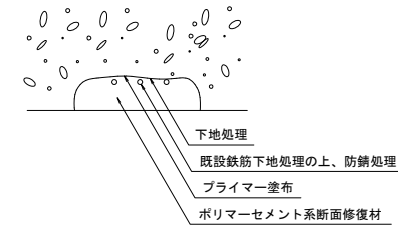
桁下 S=1:60



橋面 S=1:60

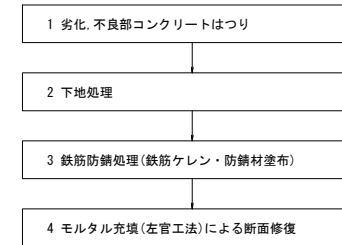


断面修復工法



1. 断面修復は施工時に鉄筋腐食状況を確認し行うこと。
2. 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷をあたえないよう周囲に深さ1~2cm程度コンクリートカッターにより断面目地を入れ、入念に施工する。
3. 使用材料はポリマーセメントモルタルとする。

※ 施工手順 (断面修復工法)



断面修復工数量 (第2径間桁下)

部材名	No.	損傷寸法	面積 (㎡)
床版・地覆	1	0.10 × 0.10 × 2	0.020
床版・地覆	2	0.10 × 0.10 × 3	0.030
主桁	3	0.40 × 0.10	0.040
		0.10 × 0.10	0.010
主桁	4	0.40 × 0.40	0.160
主桁・横桁	5	0.15 × 1.60	0.240
主桁	6	0.30 × 0.55	0.165
		0.15 × 0.55	0.083
主桁	7	0.10 × 0.10 × 7	0.070
		0.40 × 0.10	0.040
主桁	8	0.30 × 0.10	0.030
		0.10 × 0.10 × 2	0.020
主桁	9	0.40 × 0.30	0.120
		0.10 × 0.10 × 2	0.020
床版	10	0.10 × 0.10 × 2	0.020
床版	11	0.30 × 0.10	0.030
主桁	12	0.10 × 0.10 × 3	0.030
合計			1.108

防護欄鋼材再塗装工 (第2径間: Rc-III塗装系)

防護欄鋼材再塗装工面積寸法		面積 (m2)
上流側	0.075 x 0.850 x 4 x 2 x 20	10.200
下流側	0.075 x 0.850 x 4 x 2 x 20	10.200
合計		20.400

鋼製支承塗替え工 (第2径間)
金属溶射 + エポキシ樹脂塗装

塗替え箇所数 (基)	
P2橋脚	2
合計	2

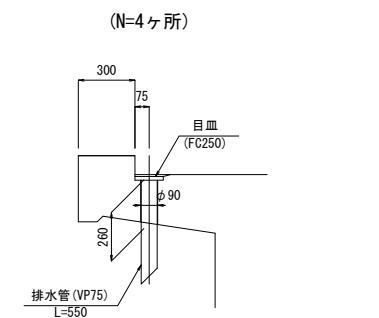
注記) 施工前に再度形状を確認すること。

ゲルバー部鋼製PL防錆処理
ケレン + 防錆処理

施工箇所数 (基)	
P2-P3径間	1
合計	1

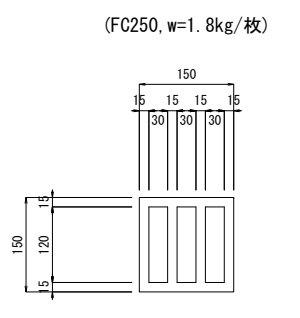
注記) 施工前に再度形状を確認すること。

排水管取替え部断面図 S=1:20



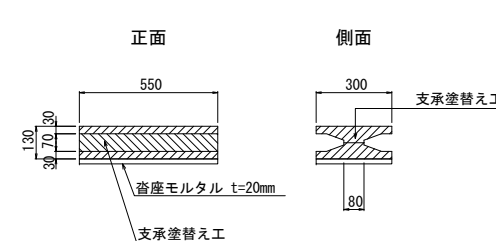
※ 既設排水管部をφ90で削孔し、新設排水管 (VP75) を差し込み、目皿を取り付ける。

目皿 S=1:6



※ 目皿周りはセメントモルタルにて固定すること。

鋼製支承詳細図 S=1:15



補修工法凡例

損傷の種類	表示	補修工法
ひびわれ	ひびわれ	ひびわれ補修工
剥離	剥離	断面修復工
鉄筋露出	鉄筋露出	-
遊離石灰	遊離石灰	-
漏水・滞水	漏水・滞水	-
欠損	欠損	断面修復工
腐食	腐食	塗装塗替え工
うき	うき	断面修復工
その他	その他	-

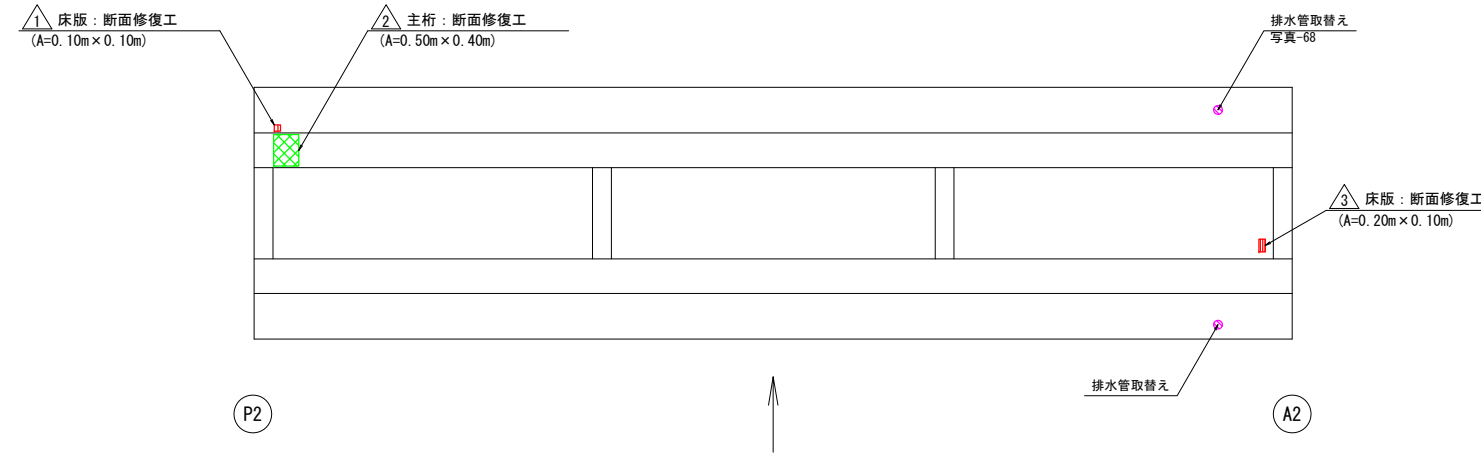
工事名	町道白栢原線通学橋補修工事
工事番号	社整交第26-4号
施工箇所	和東町栢原地内
図面種類	通学橋 上部工補修図 (その2)
縮尺	図示
図面番号	14 葉之内 9

注記) 施工前には必ず現地確認を行い、設計図書と確認の後補修数量を確定させること。

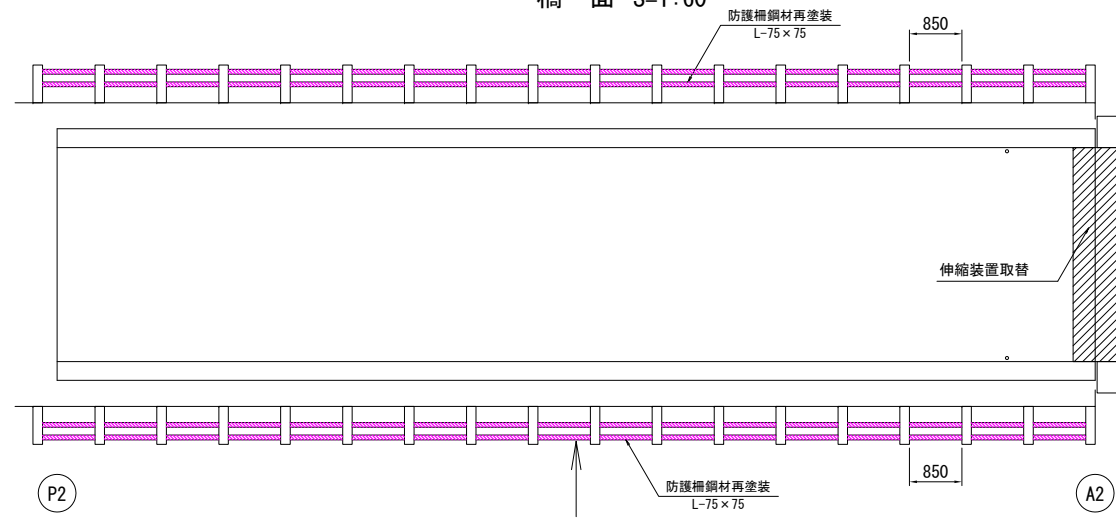
通学橋 上部工補修図 (その3)

P2-A2径間

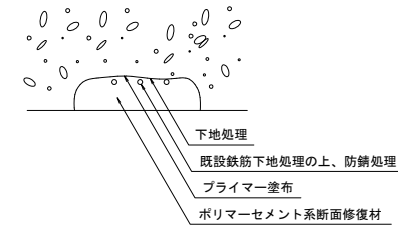
桁下 S=1:60



橋面 S=1:60



断面修復工法

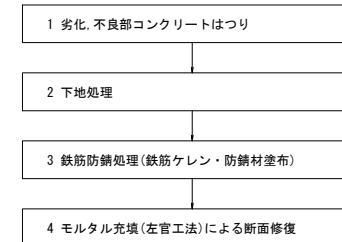


断面修復工数量 (第3径間桁下)

部材名	No.	損傷寸法	面積 (㎡)
床版	1	0.10 × 0.10	0.010
主桁	2	0.50 × 0.40	0.200
床版	3	0.20 × 0.10	0.020
合計			0.230

1. 断面修復は施工時に鉄筋腐食状況を確認し行うこと。
2. 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷をあたえないよう周囲に深さ1~2cm程度コンクリートカッターにより断面目地を入れ、入念に施工する。
3. 使用材料はポリマーセメントモルタルとする。

※ 施工手順 (断面修復工法)

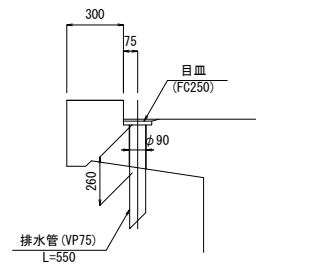


防護鋼材再塗装工 (第3径間: Rc-III 塗装系)

	防護鋼材再塗装工面積寸法	面積 (m ²)
上流側	0.075 x 0.850 x 4 x 2 x 17	8.670
下流側	0.075 x 0.850 x 4 x 2 x 17	8.670
合計		17.340

排水管取替え部断面図 S=1:20

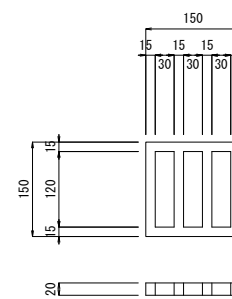
(N=2ヶ所)



※ 既設排水管路部をφ90で削孔し、新設排水管路 (VP75) を差し込み、目皿を取り付ける。

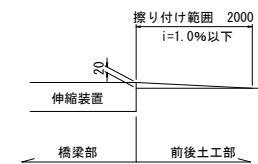
目皿 S=1:6

(FC250, w=1.8kg/枚)



※ 目皿周りはセメントモルタルにて固定すること。

舗装擦付詳細図



※ 路面の凹凸 (h=20mm) に対し舗装擦付を実施する。舗装の擦付勾配は、縦断1.0%以下とする。

補修工法凡例

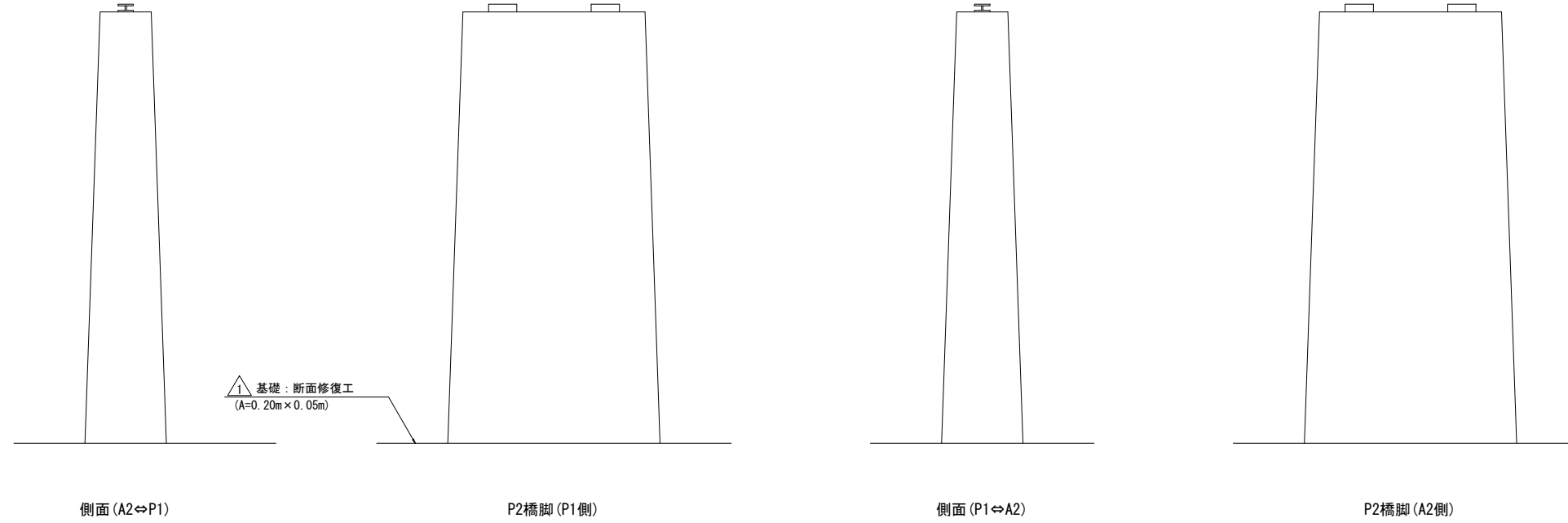
損傷の種類	表示	補修工法
ひびわれ		ひびわれ補修工
剥離		断面修復工
鉄筋露出		-
遊離石灰		-
漏水・滞水		-
欠損		断面修復工
腐食		塗装塗替え工
うき		断面修復工
その他		-

注記) 施工前には必ず現地確認を行い、設計図書と確認の後補修数量を確定させること。

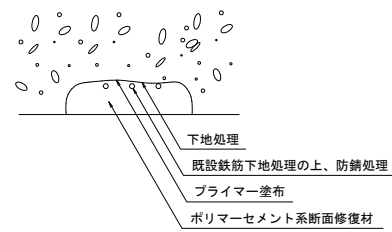
工事名	町道白栢原線通学橋補修工事
工事番号	社整交第26-4号
施工箇所	和東町栢原地内
図面種類	通学橋 上部工補修図 (その3)
縮尺	図示
図面番号	14 葉之内 10

通学橋 下部工補修図

P2橋脚 S=1:60



断面修復工法

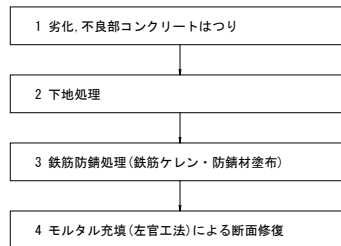


断面修復工数量 (P2橋脚)

部材名	No.	損傷寸法	面積 (㎡)
基礎	1	0.20 × 0.05	0.010
合計			0.010

- 断面修復は施工時に鉄筋腐食状況を確認し行うこと。
- 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷をあたえないよう周囲に深さ1~2cm程度コンクリートカッターにより断面目地を入れ、入念に施工する。
- 使用材料はポリマーセメントモルタルとする。

※ 施工手順 (断面修復工法)



補修工法凡例

損傷の種類	表示	補修工法
ひびわれ		ひびわれ補修工
剥離		断面修復工
鉄筋露出		
遊離石灰		-
漏水・滞水		-
欠損		断面修復工
腐食		塗装差替え工
うき		断面修復工
その他		-

工事名	町道白栢原線通学橋補修工事
工事番号	社整交第26-4号
施工箇所	和東町栢原地内
図面種類	通学橋 下部工補修図
縮尺	図示
図面番号	14 葉之内 11

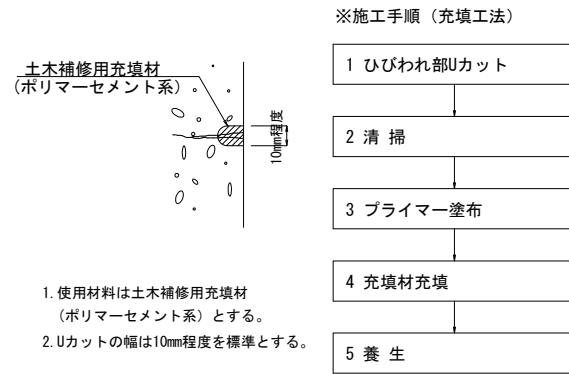
注記) 施工前には必ず現地確認を行い、設計図書と確認の後補修数量を確定させること。

通学橋 補修標準図

<ひびわれ補修工>

ひびわれ充填工施工要領図

(ひびわれ：0.5mm以上・遊離石灰で閉塞したひびわれ)



補修材の要求性能

(この要求性能を参考として、同等品と認められる材料を選定するものとする)

ひびわれ補修材の性能例 (試験温度 20℃)

項目	単位	注 入 材			充 填 材	
		土木補修用エポキシ樹脂注入材 1種	土木補修用エポキシ樹脂注入材 2種	土木補修用エポキシ樹脂注入材 3種	土木補修用充填材 ポリマーセメント系	土木補修用充填材 シーラント系
ひびわれ進行度区分		B			A	B
ひびわれ幅 (mm)		0.2 ~ 5.0				5.0<
粘 度	c p s	1,000以下	4±1 (注-1)	1,000以下	10,000以下	だれを認めず
可使用時間	分	30以上	30以上	30以上	30以上	240以上
硬化時間	時間	16以内	16以内	24以内	16以内	24以内
硬化収縮	%	0.1以下	0.1以下	0.1以下	0.1以下	-
伸 び 率	%	-	50以上	100以上	-	800以上
モルタル付着強さ (乾燥面)	k g f / c m ²	60以上	60以上	60以上	60以上	たわみ量 10mm以上で破壊すること
付着力耐久性保持率 (注-2)	%	60以上	60以上	60以上	60以上	60以上

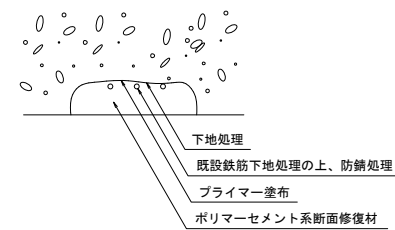
※注-1 チキソトロピック係数 2 r p m / 2 0 r p m の粘度で表す。
※注-2 規格に対する百分率

抜粋：「旧建設省総合技術開発プロジェクト：土木研究センター」

<断面修復工>

左官工法施工要領図

(ポリマーセメントモルタル)



1. 断面修復は施工時に鉄筋腐食状況を確認し行うこと。
2. 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷をあたえないよう周囲に深さ1~2cm程度コンクリートカッターにより断面目地を入れ、入念に施工する。
3. 使用材料はポリマーセメントモルタルとする。

補修材の要求性能

ポリマーセメントモルタルの性能例

施工方法	左 官		吹付け	充てん
	普通	軽量		
硬化性	普通		速硬	普通
軽量性	普通	軽量		
単位容積質量 (k g / l)	1.8~2.2	1.3~1.6	1.8~2.1	1.5~2.2
フロー	120~160	110~150	120~160	140~250
硬化時間 (h)	3~8	3~10	0.5~2	3~8
圧縮強度 (N / m m ²)	材齢 3h	-	3~15	-
	材齢 1d	5~25	3~25	10~30
	材齢 7d	20~40	5~30	20~40
	材齢 28d	25~60	10~35	25~40
付着強度 (N / m m ²)	標準	1.8~3.4	1.8~2.6	2.0~2.8
	温冷繰返し			
弾性係数 (k N / m m ²)	16~21	12~15	13~21	14~21
引張強度 (N / m m ²)	3~6			
収縮率 (× 1 0 ⁻⁶)	200~1000			
熱膨張率 (× 1 0 ⁻⁶ / °C)	8~17	9~13	10~15	9~17

抜粋：「表面保護工法 設計施工指針 (案) : 土木学会」

鉄筋コンクリート補修用防錆材の品質基準

項目	基準値	
耐アルカリ性	塗膜に異常が認められないこと	
鉄筋に対する付着強さ (N / m m ²)	7.8以上	
防せい性	処理部	防せい率：50%以上
	未処理部	防せい率：-10%以上*

*：未処理部の防せい率は、防せい材で処理することによって、マクロセルを形成し、基材部の鉄筋腐食を促進するようなものであってはならず、比較用モルタルの発せい率とほぼ同等以下とし、発せい生率で+10%以下 (= 防せい率で-10%以上) とした。

抜粋：「ひびわれ調査、補修・補強指針：日本コンクリート工学協会」

<防護柵鋼材再塗装工>

塗装仕様 (Rc-III 塗装系)

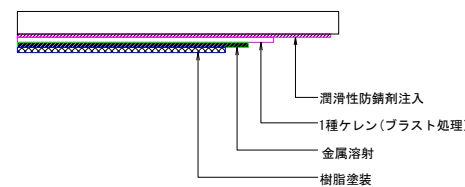
塗装工程	塗料名	使用量 (g / m ²)	塗装間隔
素地調整	3種		4時間以内 1日~10日 1日~10日 1日~10日 1日~10日 1日~10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (鋼板露出部のみ)	(200)	
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120	

注) 塗装作業は、「日本道路協会 鋼道路橋防食便覧 H26.3」に従って行うこと。

<鋼製支承塗替え工>

「支承の若返り工法 (NETIS: HR-100013-A)」

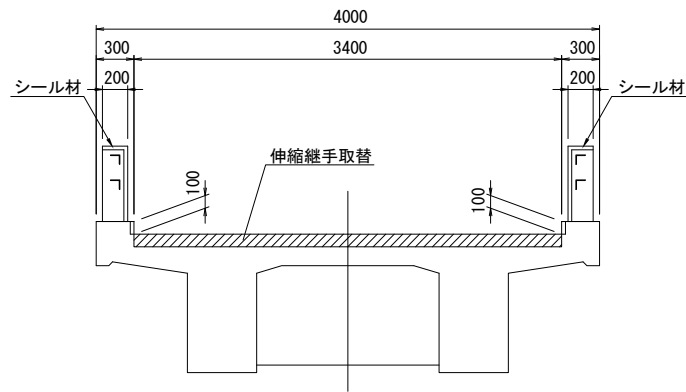
金属溶射 + エポキシ樹脂塗装



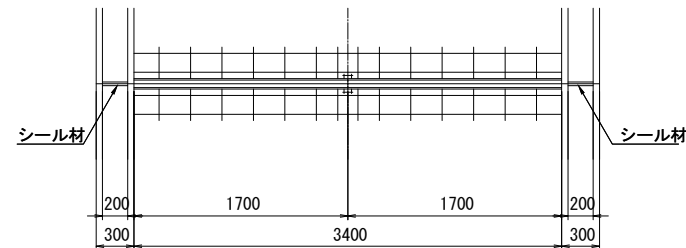
工事名	町道白栢橋原線通学橋補修工事
工事番号	社整交第26-4号
施工箇所	和東町橋原地内
図面種類	通学橋 補修標準図
縮 尺	図示
図面番号	14 葉之内 12

通学橋 伸縮継手装置補修図

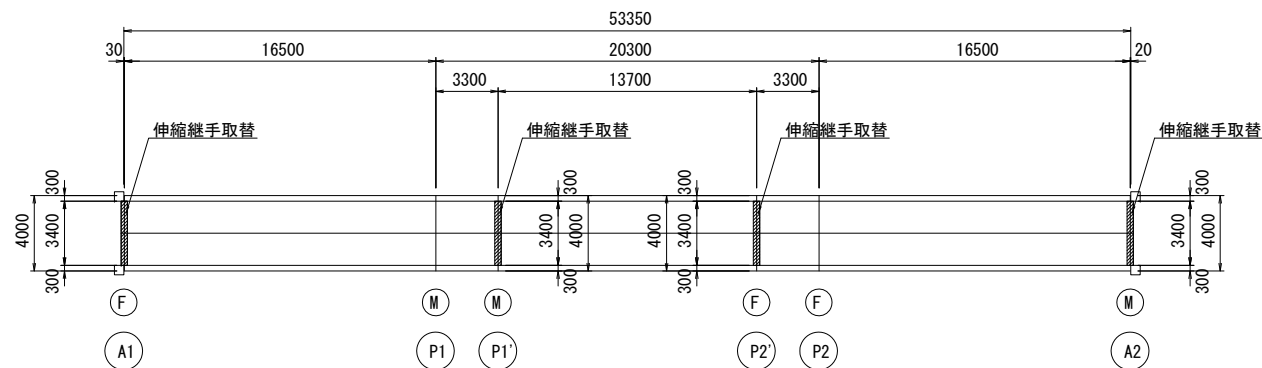
断面図 S=1:30



平面図 S=1:30

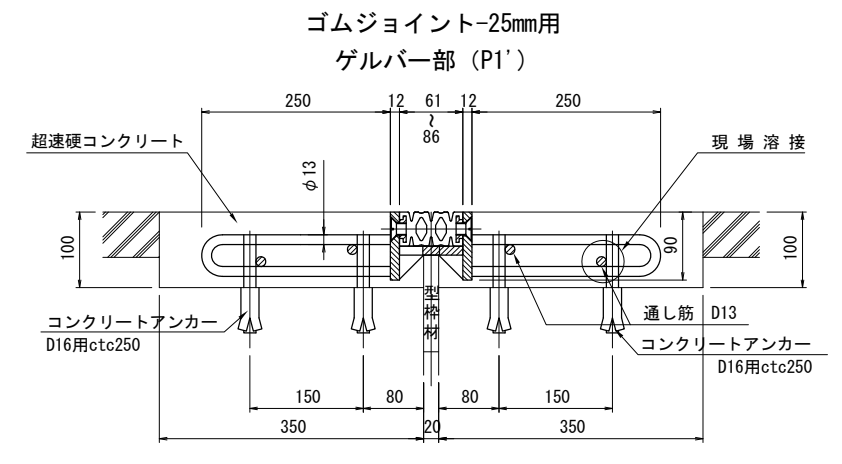
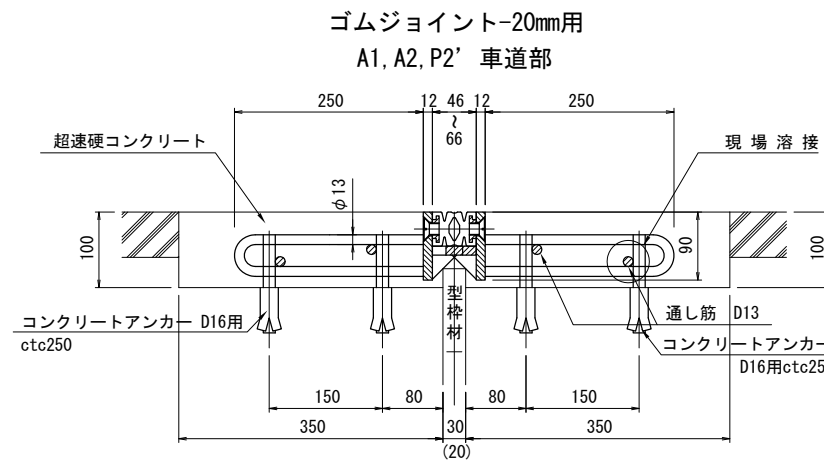


配置図 S=1:200



※支承条件は現支承形状からの推定。

伸縮継手断面図 S=1:5



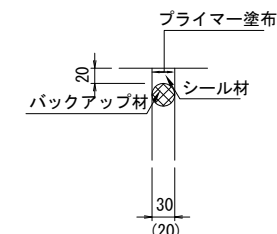
注) ()内寸法はA2を示す。

伸縮継手材料表

名称	材質	単位	A1数量	P1'数量	P2'数量	A2数量	合計数量	備考
ゴムジョイント-25mm用	SS400 合成ゴム SR235 SD345	m		3.400			3.400	車道用 通し筋含む
ゴムジョイント-20mm用	SS400 合成ゴム SR235 SD345	m	3.400		3.400	3.400	10.200	車道用 通し筋含む
シール材	シリコン系	リッター	1.14	0.76	0.76	0.76	3.42	
後打コンクリート	超速硬コンクリート	m ³	0.238	0.238	0.238	0.238	0.952	
コンクリートアンカー D16用		本	56	56	56	56	224	

注) 伸縮継手長、遊間、橋台側パラペット厚は、現地測量後決定する事。

シール材充填図 S=1:5



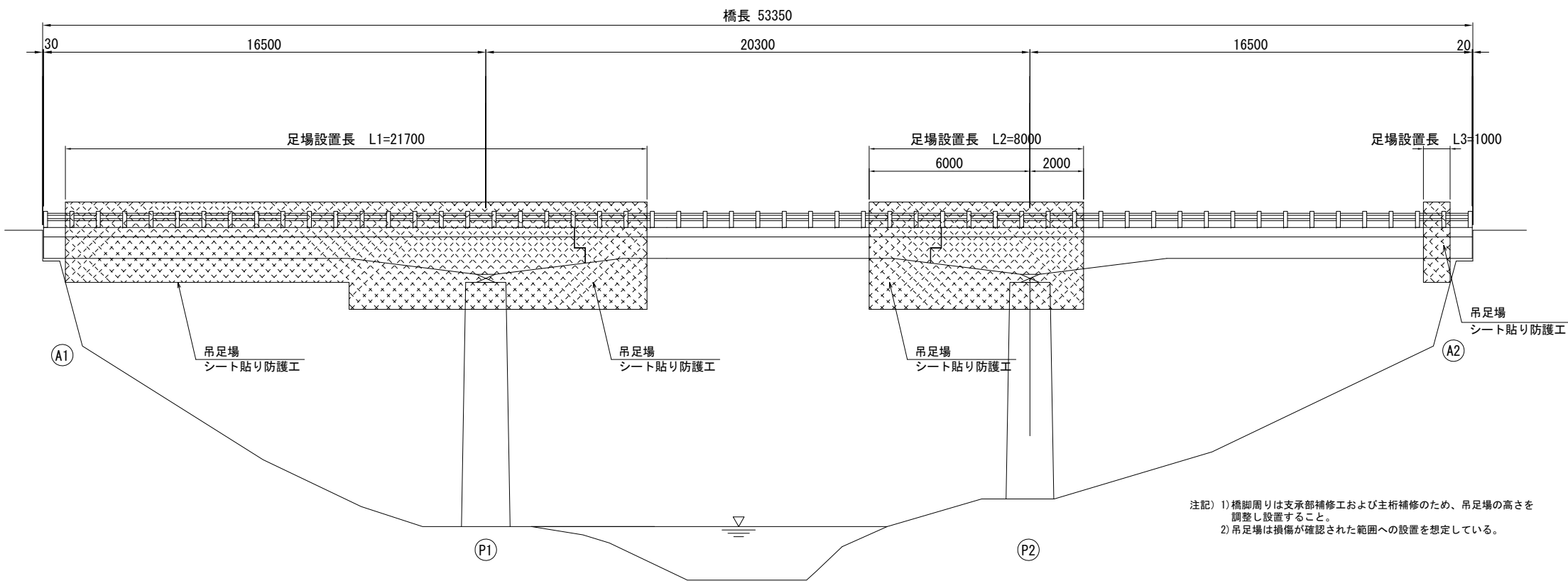
注) ()内寸法はP1', P2', A2を示す。

工事名	町道白栢原線通学橋補修工事
工事番号	社整交第26-4号
施工箇所	和束町栢原地内
図面種類	通学橋 伸縮継手装置補修図
縮尺	図示
図面番号	14 業之内 13

注記) 施工前には必ず現地確認を行い、設計図書と確認の後補修数量を確定させること。

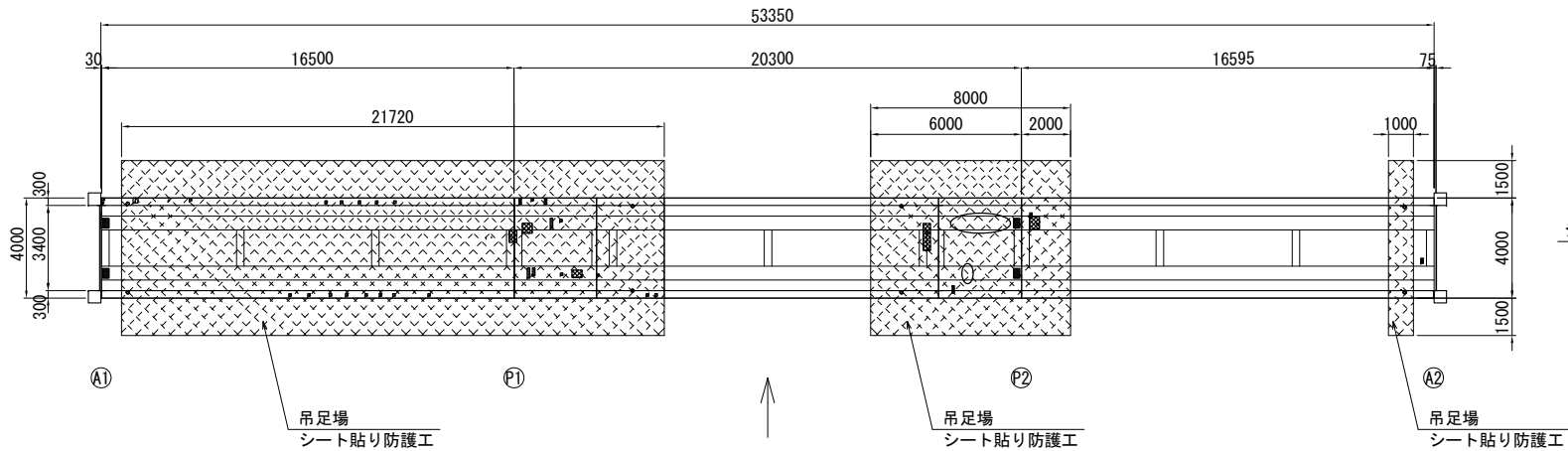
通学橋 仮設足場参考図

側面図 S=1:100

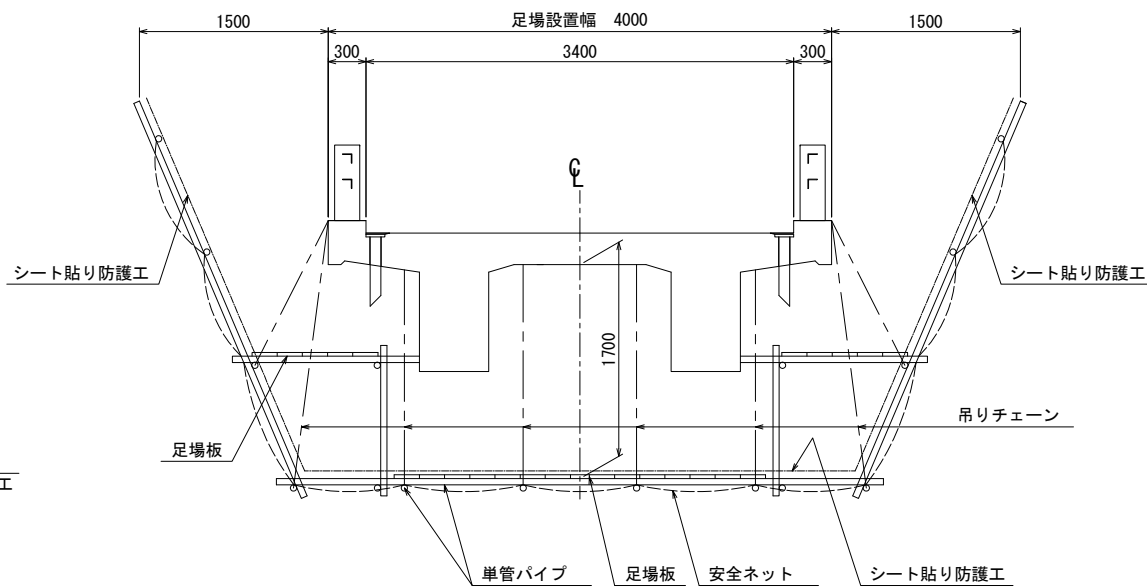


注記) 1) 橋脚周りは支保部補修工および主桁補修のため、吊足場の高さを調整し設置すること。
2) 吊足場は損傷が確認された範囲への設置を想定している。

平面図 S=1:150



上部工断面図 S=1:30



注記)
1. 足場チェーン用アンカー打設は現地確認の上位置を決定すること。
2. 足場設置の方法は、現地確認後再度協議を行い決定すること。

工事名	町道白栢原線通学橋補修工事
工事番号	社登交第26-4号
施工箇所	和東町栢原地内
図面種類	通学橋 仮設足場参考図
縮尺	図示
図面番号	14 業之内 14